

Hermann Gottschewski

放送大学千葉学習センターの面接授業『二十世紀初頭のピアノ演奏』

第七～八回目：19 世紀生まれのピアニストたちが共通に持っている特徴

纏め

前回の持ち越し：「それぞれの著名ピアニストが得意とするレパートリー」について、アルフレート・グリュンフェルト（Alfred Grünfeld, 1852–1924）とウィーンのワルツを取り上げたい。

今回は主に「自作のピアノ曲を演奏するピアニスト」を、同じ曲を演奏する現代のピアニストと比較しながら 19 世紀生まれのピアニストたちが共通に持っている特徴を考えたい。

時間が許す限り、以下のピアニスト・作曲家を取り上げたい。

アルフレート・グリュンフェルト

カミーユ・サン＝サーンス

(Camille Saint-Saëns, 1835–1921)

エドヴァルド・グリーグ

(Edvard Grieg, 1843–1907)

アレクサンドル・スクリャービン

(Алекса́ндр Никола́евич Скре́бин, 1871–1915)

テオドール・レシエティツキ

(Theodor Leschetizky, 1830–1915)